



あおぞら財団 教育・研修事業のご案内

あおぞら財団では、西淀川の公害の解決に取り組んだ貴重な経験をもとに、環境と人権を重視したSDGs時代の学びをコーディネートします。西淀川公害の歴史はもちろん、地域再生のまちづくり、交通マネジメント、環境と防災といったテーマの研修も展開しています。

◆ 西淀川フィールドワーク

西淀川公害裁判を経て、公害対策が進められた地域を歩き、青空をとりもどした西淀川の「今」を体感します。公害患者をはじめ、元企業の担当者、行政、弁護士などの多様な語りをコーディネートできます。

＜プログラム料＞

1時間/10,000円(ガイド2人随行を基本。30人以上参加の場合、要追加料金)

◆ 講演・出張授業

公害患者の出前授業や、財団研究員による講演・ワークショップも承ります。講師料と交通費が必要です。お申込み時にご相談ください。

＜お問い合わせ＞

あおぞら財団 webmaster@aozora.or.jp



大阪市立築港中学校で NO₂測定の授業を実施



大阪市環境局主催の出前講座として、大阪市立築港中学校(港区)にて、大阪の大気汚染についての講義と空気調製の授業を実施しました。「海遊館部」の活動として12人の参加でした。

授業では、あらかじめ自宅や学校の周辺などに24時間設置したカプセルにザルツマン試薬を入れるところからはじめました。その反応が出るまでの時間を利用し、栗本から大阪の大気汚染公害の歴史について話しました。

その後、各カプセルの測定を実施。学校周辺の地図に、測定結果を汚染濃度で色わけしたシールを貼っていきます。

すべての地点が環境基準値の0.04ppmを

下回りましたが、学校周辺の道路は、トラックの交通量の多い道路もあり、0.02ppmを上回る地点は複数ありました。

最後に、谷内から、近年の大阪の大気汚染の変化や、地球温暖化と大気汚染のかかり、大気汚染防止のためになにができるかを講義しました。

アンケートでは、「けっこう近い存在なのに気にしてなかった大気のことについて、汚れていたことや改善点など、いろんなことを知れてよかった」といった感想をいただきました。(2020.10.24実施) 栗

あおぞら財団附属西淀川・公害と環境資料館エコミューズ所蔵資料紹介



ECO MUSE 西淀川・公害と環境資料館 エコミューズ利用のご案内

エコミューズでは、公害や西淀川地域に関する図書や、西淀川公害裁判資料、弁護士や患者会・住民運動などの一次資料といわれる写真や会議資料等を所蔵しています。ぜひ一度、お越しください。

◆ 利用案内

開館時間:月および金曜 10:00-17:00
*開架図書・資料は一般の図書館と同様に利用いただけますが、資料のレファレンスや展示パネルの解説等をご希望の場合は、2週間前までにご予約をお願いします。

＜資料公開規定＞

開架図書・資料 貸出可(一部、禁帯出資料あり)。
貸出期間は2週間。
裁判記録:閲覧のみ
書庫資料:閲覧のみ

＜お問い合わせ＞

あおぞら財団 webmaster@aozora.or.jp
エコミューズ aozora.or.jp/ecomuse/

西淀川公害=資料の紹介(1)

第1回公害問題講座のポスター

エコミューズ館長:小田康徳

1970年10月、日本科学者会議大阪支部・新日本医師協会大阪支部・大阪民主医療機関連合会はそろって公害問題講座を開きました。これはそのときのポスターです(エコミューズ保管)。参加者は4日間で延べ1,000人以上。うち384人に上ったアンケートのまとめもガリ版刷りで残っています。公害問題を知りたい、理解したいという願望は大阪でも広がっていたのです。

講座の主催者たちも知らない多様な人びとがこの講座を聴講しました。10歳代34人、20歳代243人、30歳代50人と圧倒的に若い人が多く、参加のきっかけは、8割以上がポスターやビラを見てと答え、もっと早く知れたかったとも語っています。公害問題は日本を揺るがす大問題で、自分にも関わりと広く認識されていたのです。翌年1月には第2回の講座が実施されています。

公害をなくそうとの声を一つにまとめ、公害対策について大阪府や市などの行政と渡り合おうとする持続的な組織「大阪から公害をなくす会」が結成されるのは、1971年2月17日のことでした。

